別紙様式(Ｂ４横型)

学校番号 19

令和元年度　学校自己評価表　（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

福岡県立若松高等学校長

(全　日　制)　（ＮＯ．１／３）

学校経営方針（４月）			評価(３月)
学校教育目標	「確かな学力」の向上を図り、知・徳・体の調和のとれた「豊かな人間性」を培い、国際社会に主体的に対応できる「生きる力」を育成する。		B
昨年度の成果と課題	３１年度 重点目標	具体的目標	
これまでのきめ細かな指導により、規範意識の向上、進路実績や部活動の躍進等がみられ創立１１０周年に向けて更なる教育内容の質の向上が図られている。昨年度は教職員個々が自身の教育活動の質の向上に取り組み、教育環境の品質向上と学校の教育力向上を図ってきた。今年度は地域に求められる高校として一層の進学実績・就職実績を追求すると同時に、確かな学力の定着と個別指導の充実に努める。生徒一人一人の可能性を最大限引き出し、「生きる力」を身につけた生徒の育成に取り組むことで、将来、どのような仕事に就いたとしても自分の力を最大限発揮し、社会に貢献できる人材を育成する。授業面においては、ＩＣＴを効果的に活用して思考力のつく授業手法の研究に取り組むとともに、主体的・対話的で深い学びを推進し「生きる力」を備えた生徒の育成を図る。その上で魅力ある「授業」と細やかな個別指導、多岐に亘る希望進路実現のための「若高キャリア教育プラン」（ブランド化）を本校の特色としてアピールし、本校を正しく理解してもらえるようリアルタイムに効果的な情報発信を行うことにより、志願者数増加を図る。	確かな学力の向上を図り、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を培い、国際社会に主体的に対応できる「生きる力」を育成する。 （１）礼儀正しく、規範意識の高い学校をつくる。 （２）若高キャリア教育プランを推進する。 （３）教科指導力と生徒指導力を高める。 （４）学校行事や部活動を活性化させ、元気あふれる若高を創る。 （５）地域及び小・中学校との連携を深め、信頼度を高める。	（１）・全ての生徒が場に応じた挨拶ができる。 ・学校内外を問わず、ルール・マナーを守って生活することができる。 ・出席皆勤等、表彰される生徒を各学年５０名以上輩出する。 （２）・多岐に亘る希望進路の１００％実現を図るため、希望進路に合わせた若高キャリア教育プランを推進する。 ・個別指導を充実する。 （３）・確かな学力を身につけさせる為の授業力の向上に努めるとともに、全ての教師がICT活用能力を習得し、授業に生かす。 ・自学による学力向上を図るため、効果的な課題作成に取り組み、内発的な学習習慣の確立に着手する。 ・職員一人一人が「教師としての行動指針」を実行できるようになる。 ・生徒の問題行動を見逃すことなく、時機をとらえ組織的な指導を行うとともにいじめの撲滅を図る。 （４）・生徒会、ブロックリーダー、委員会活動、部活動等の活性化を図り、学校行事や日々の活動をとおして課題解決能力を育成する。 ・部活動加入率７５％を目指し、県大会出場部活動を増やす。 ・素直で明るく、文武両道に努力する心身ともにたくましい生徒を育てる。 （５）・在校生による出身中学校訪問により、生徒目線による若松高校の魅力を発信する。 ・積極的な情報発信に努め、リアルタイムな広報活動を展開する。 ・地域との繋がりを大切にし、小・中学校や関係機関との連携を深め、地域の期待に応える「地域に信頼される学校」づくりに努める。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価(３月)		次年度の主な課題
教務部	教務	確かな学力の育成のための魅力ある授業の展開	・ＩＣＴ機器を活用した授業や、アクティブラーニングの手法を取り入れた授業を引き続き積極的に行うことによって、生徒にとって魅力的で質の高い授業を目指す。	B	B	・タブレット端末が使える自習環境の構築や、ＩＣＴ機器を活用した授業が年間を通して積極的に行われた。その一方で、成績に問題がある生徒ほど、自ら課題に取り組む姿勢が希薄であり、今後も継続した指導が必要だと思われる。 ・授業規律については、各教科担当や学年の努力もあり、全体として落ち着いた環境下で授業が行われた。今後数年間は、校舎改築も並行して行われる中で、如何に、安心して落ち着いた学習環境を提供できるかも計画的に考えていく必要がある。 ・日頃の授業や学校行事、総学・総探を通して生徒の進路を明確に描けるカリキュラムを提供してきたが、残念ながら、９９％の出席率は達成できず、特に１年生で進路変更をする生徒が増加したことは反省材料であり、生徒自身が３年間の高校生活を見通して過ごせる環境作りが必要であると痛感した。
		授業規律の徹底と家庭学習の定着	・チャイム to チャイムの授業を行い、授業内での規範意識を高める指導を行う。 ・英・数・国を中心に日々の宿題や週末課題の徹底を図り、生徒の自習力の育成に努める。	A		
		コース制の充実	・３年生のコース制を活かした進路確立のための授業の充実を図り、また、不登校や中途退学を防ぐための個別面談期間の設定などを行い、各学年と協力して出席率９９％を目指す。	B		
	企画	中学生の視点に立った効果的な広報活動の推進	・中学校訪問を柱に、パンフレット、ポスター、広報紙、またホームページ等のさまざまな媒体を通して、本校の教育活動の取組と特長を、中学生に向けて効果的に情報提供する。特に若松区内の中学生の志願を定着させるとともに、戸畑区内からの志願者増加を図る。 ・２回の中学生体験入学を実施（8月、10月）し、３００名以上（の参加者を目指す。28年度201名、29年度255名、30年度218名） ・学校開放週間、出前授業、体育大会案内、広報掲示板（学校行事、進路実績、部活動実績等）およびホームページなどにより、「地域に開かれた若高」をＰＲする。	B	B	・中学生体験入学の中学生の参加者数は、昨年比１回目1.09倍、２回目1..17倍に増加し、保護者の参加者数は昨年度の2倍に増加した。（参加者計272名 1.25倍）。しかし、目標の人数には達しておらず、また一部の中学校に参加者が偏っている現状は、中学生に十分伝わっていないと考えられる。次年度は、私立高校の動向を踏まえ、本校の特長を前面に出した効果的な広報活動を行いたい。また広報活動の強化、並びに地域に開かれた若高をＰＲのために積極的に校外に出向き、そこを軸にした情報発信を行うことも検討したい。 ・学校案内、各種ポスター、広報紙等の広報媒体は年々充実している。他校の紙面と取り組みを参考にして、次年度もインパクトのある紙面作成を継続したい。 ・ホームページの更新頻度を増すために学年、分掌、部活動顧問の積極的な協力を求めたい。またスムーズな更新ができる体制を整えていきたい。 ・防災訓練の実施状況は良好であるが、防災意識の向上のために内容の充実を図りたい。また、防災に関する情報提供を適宜行うとともに、各教科（授業）おける防災教育への取り組みを働きかけていきたい。 ・ＰＴＡ総会の参加者数は、駐車場の開放などの手立てを講じたが、微増にとどまった。参加者を増やすための改善策をPTAとともに考えていく。また、良好なＰＴＡと教職員の連携がさらに発展、継続できるよう、全教職員に協力をお願いしていく。
		防災意識の向上と防災教育の充実	・火災だけでなく、地震、風水害、津波などの自然災害に対応した卒業後も役立つ防災教育（知識と技能の習得）の充実を図る。 ・防災訓練は消防署との事前の打ち合わせを十分に行い実施する。また、行政が発行した防災に関する資料を積極的に活用する。	B		
		ＰＴＡとの連携による学校活性化	・ＰＴＡと教職員の連携（挨拶運動、若高祭・体育大会バザー、広報紙の発行、研修会等）を強化することで、学校の活性化を推進する。ＰＴＡ総会の参加者数増加のために案内の仕方を工夫する。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価(３月)		次年度の主な課題
生徒部	生徒指導	基本的生活習慣の確立	・年間をとおした登校指導と定期的な下校指導を行い、学校の内外を問わず、社会のルールやマナーを守って生活することのできる生徒を育成する。 ・生徒違反カードを継続して利用し、全職員で制服の着こなしと頭髪指導を行う。すべてにおいて組織的に統一した指導する。	B	B	・次年度も登下校指導を実施し、あいさつ運動を通して、生徒との人間関係づくりとけじめのある学校生活を送ることができるよう、全職員で取り組む。必要に応じて、下校時の列車補導や地域施設の巡視を行う。 ・年間の問題行動指導生徒数は２３名で目標の達成がなされなかった。これは、昨年度から見ると増加傾向になった。さらに生徒の規範意識の向上を図る取組を実施したい。 ・特に近年携帯電話・スマートフォンにかかわる問題行動が増加しているため携帯・スマートフォン使用に対する規範意識を育成しなければならない。 ・生徒会の各委員会活動を活性化し、執行部と協力して、学校行事や生徒会活動を生徒達自身で企画・運営ができるよう指導して行きたい。
		「生きる力」を備えた生徒の育成	・礼儀をわきまえ、規範意識が高い生徒、気持ちの良い挨拶ができる生徒の育成を目指し、年間をとおした登校指導とPTA・若高を愛する会と連携した「笑顔のあいさつ運動」を行う。 ・年間問題行動指導生徒数１５名以下を目指す。 ・スマホなどの通信端末でのトラブルや問題行動を未然に防ぐ取組を行う。	B		
		元気溢れる若高生を創る	・特別活動（ブロック活動、生徒会、委員会活動、部活動、学校行事や学級活動、地域ボランテイア活動等）をとおして課題解決能力、「豊かな人間性」を育成する。 ・部活動加入率７５％を目指す。	B		
	保　健	健康管理・安全衛生管理の習慣の習得と研修の実施	・生徒の健康診断を実施する。 ・外部講師を招聘し、学年単位での救急救命講習会を実施する。 ・教育相談、カウンセリングを充実させる。 ・心身ともに健全な生徒を育成する。 ・必要に応じて生徒情報の共有や配慮を要する生徒への対応などの研修を実施する。	A	B	・健康診断をはじめとする各種診断は先生方の協力を得てどれも円滑に進み、大きな問題もなく終えることができた。また救急救命講習会や心の健康相談、性教育講演会なども活動状況や生徒の感想などから、一定の効果を得ることができていたと考える。 ・今年度は新たに配慮を要する生徒への研修として研修班と連携して癲癇の研修を行なった。毎年一定数このような生徒が入学してくるので、次年度も必要に応じて適宜研修会を開くなどして注意喚起、啓発を行なう。 ・校内美化活動は計画的に行なうことができたが、各清掃区域の清掃状況の差が激しい。職員に校内美化の意識をもつよう働きかけたい。 ・教室の変更などもあって当初考えていた職員の休憩室の確保、環境改善がまったく出来なかった。早急に取り組みたい。 ・インフルエンザ等の流行は例年に比べ穏やかであり、生徒にも感染症を予防しようとする姿勢が見られた。今後も注意喚起を継続したい。
		環境美化活動の推進	・美化委員会を中心として校内美化活動を継続実施するとともに、各種行事の前後に大掃除を計画して教育環境の整備に努める。 ・職員が率先して職場環境の整備に努め、仕事しやすい環境づくりを目指す。	C		
		感染症の予防や大気汚染などへの注意喚起	・インフルエンザ、流行性角結膜炎等の感染症の予防として手洗いやうがいを励行し、生徒間の不必要な接触や物の貸し借りを禁止し、教室の換気等に努める。 ・関係機関等の最新情報を収集し、ＰＭ２．５などの大気汚染物質に対して十分注意を払う。 ・保健委員による健康調査を実施する。	B		
進路部	進　路	生徒の学力向上と主体的な進路選択能力の育成	・朝課外において習熟度別に講座を実施することで、より生徒の理解度に合わせた授業を行う。また、1・2年生ではベネッセのClassiラーニングシステムを使って「振り返り学習」を行うことで基礎的・基本的な知識の定着を図る。 ・1年「夢授業」「職業ガイダンス」、2年「インターンシップ」「上級学校授業体験」などの進路行事を通じて、自らの将来のビジョンを描く能力の育成を図る。 ・卒業生による「就職座談会」を通じて、就職希望者の勤労観・職業観の育成を図る。	B	B	・希望制での朝課外実施ということで、生徒の参加率・出席率の向上を図るために、内容の精選、そして一年次の英語・数学での習熟度別で実施する。 ・生徒の進路意識の向上を図るために、2年生後期からコース別で課外を実施する。 ・「夢授業」・「インターンシップ」・「上級学校授業体験」・「大学訪問」その他のキャリア教育などの進路行事において、事前指導の中での調査・準備、事後指導の中でのまとめ・発表を徹底することで、生徒の進路意識の向上を図る。 ・推薦入試が終わった後も、センター試験・私大入試まで頑張るよう指導する。 ・進路実現の可能性を高めていくために、英検・漢検・数検・パソコン・ワープロなど各種資格の取得を奨励する。 ・進学についても、就職同様指導のシステム化を図る。
		生徒それぞれの希望進路の実現 国公立大学：15名 四年制大学：50名 就職内定率：100%	・高大教育連携講座や進路行事において、生徒の主体的に学ぶ姿勢の育成を図り、小論文作成能力や社会の諸問題に対して自ら解決策を考える能力の育成を図る。 ・課外の内容の精選を行い、より生徒のニーズに合わせた形で課外・補習を行う。推薦・AO入試対策として、個別指導を充実させる。そのために、学年・各教科との連携を図る。 ・就職希望者に対しては、校内での面接指導やパソコン講習、外部指導者による指導を行い、第1希望企業の内定を目指す。	B		
	人権・同和教育	人権侵害である「いじめ」のない学校づくり	・「いじめアンケート」または「学校生活アンケート」を毎月実施し、その結果をもとに早期の状況把握からの対応に活かせるようにする。また、アンケートの実施時間や方法、内容等を適宜改善し、さらなる効果的な取組となるようにしていく。 ・クラス担任や学年団と連携を図りながら、早期の解決へとつなげるとともに、その後の様子などから、経過について見守る。	B	B	・各種アンケートの結果を受けて、大きな問題となる前にクラス担任や学年団の先生方に迅速に対応していただくことができた。その一方で、生徒間のトラブルも残念ながら若干発生しており、今後も注視する必要がある。 ・就学支援金の手続きに関する情報提供を生徒情報交換会の際に行えたことで、先生方により関心をもって対応していただけたのではないかと思う。マイナンバーカードを用いた申請の場合、奨学給付金の支給が遅れるなどの不具合も今年度発生しており、正しい情報の把握や状況の伝達等も含め、クラス担任や事務室等と連携を図りながら取組を進める必要がある。 ・今年度より奨学金の担当になられた先生によるきめ細やかな対応により、入学時ならびに卒業後に向けた奨学金の手続きを滞りなく進めることができている。日本学生支援機構の奨学金も含め、次年度に向けてもさらに変更がなされる可能性もあり、今後も連携をとりながら対応を進めたい。 ・学年担当の先生方を中心に、クラス担任や学年団の先生方の協力のもと、人権・同和教育特設授業を無事に進めることができた。生徒にとってさらに効果的でより良い内容となることを目指し、検討していきたい。
		修学・進路保障の取組を通した「生きる力」の育成	・就学支援金や各種奨学金の活用を通して、経済的な見通しをもって、進路実現を図ることができるようにする。 ・生徒情報交換会等を通じて、生徒やその家庭に関する情報交換を教職員間において密に行うことができるようにする。 ・統一応募用紙や違反質問に対する学習を充実させることで、生徒一人ひとりの人権が保障された進路実現に向けての取組へとつなげられるようにする。	B		
		人権・同和教育特設授業の取組の充実	・外部講師の招聘や、視聴覚教材の効果的な活用など、生徒の実態に応じて創意工夫した授業を展開できるようにする。 ・様々な教育活動を通して、人権を尊重することの大切さを学ばせるとともに、教師自身の体験や「伝えたいこと」「訴えたいこと」といった、心の部分を深化させることで、人権を尊重する「ねらい」や目的を持って取組を進める。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
学年経営部	研修	職員研修・初任者研修の充実	・職員研修は、昨年度末に実施した希望調査の結果をもとに内容を精選する。特に、新学習指導要領（大学入学共通テスト）移行に伴う内容を取り入れたい。 ・各分掌の先生方と連携して初任者研修の内容充実を図るとともに、研究授業（計９回）や示範授業（計６回）の参観を促したい。	B	B	・１学期は「Classi」「てんかん」「救急救命」、２学期は「大学入学共通テスト」「生徒支援」に関する研修を行った。今後も、重要度と緊急度の高い内容を取り扱うよう心掛けたい。特に、新学習指導要領への移行にともなう、授業改善や評価規準に関する研修の実施を検討したい。 ・今年度より、全職員に研究授業の参観をお願いしており、相互に授業力を向上させる雰囲気を醸成することができた。次年度以降も継続したい。 ・「朝読書週間」を設定し、全校一斉に読書を行うことで、心を落ち着かせた状態で授業に向かわせることができた。しかしながら、２学期以降図書館に向かう渡り廊下が無くなったことが影響して、図書館を利用する生徒が減少している。そのため、生徒が本に触れるような更なる工夫が必要である。 ・近隣の小中学生を招待して実施し、保護者を含めて約３０名が参加した。また、４名のＡＬＴに協力してもらい、より国際色豊かな内容になった。次年度以降も多くの小中学生に参加してもらえるよう、内容の充実に努めたい。
		図書館利用の促進	・１年生向けに「図書館オリエンテーション」の実施や全学年対象の「朝読書週間」「読書の時間」を設定することで、生徒一人あたりの貸し出し冊数5冊(昨年度4.8冊)を目指す。 ・学期毎に選書委員会を開催や、図書館通信を発行によって、図書館利用者の増加を図る。	B		
		国際交流の推進	・英語セミナーを生徒主体で運営することにより、多様な価値観や異文化理解を深めさせる。また、近隣の小中学生の参加を募り、学校のＰＲに繋げる。	B		
	１学年	基本的生活習慣の確立	・挨拶を徹底し、時間を守り、真剣に清掃活動に取り組むことにより、規律ある高校生活を送らせる。 ・出席皆勤５０％以上達成する。 ・自らを律しつつ、周囲の人々と協調し、他人を思いやる心を育ませる。	B	B	・１年生として身に付けるべき基本的生活習慣を、身に付けることができていない生徒が少数いると実感している。「挨拶の徹底」「時間厳守」「勤勉（学習と清掃活動）」の３つは、将来社会人として絶対に必要な資質であり、今後も授業やＨＲ、学年集会を通じて指導していきたい。 ・保護者と連携をとりながら、安易に遅刻や欠席をする生徒を撲滅し、精神的な成長を促したい。 ・将来の進路目標をきちんと立てさせるとともに、自分の夢を実現するために何が必要かを探求する場として、総探、ＨＲの在り方を検討していく必要がある。 ・将来社会人として活躍する人材育成を目標に、中核学年としてリーダーシップを発揮する場面を設定していきたい。
		基礎学力の定着	・学習の目的、学習方法をきちんと理解した上で、目標をもって学習に取り組ませる。 ・謙虚な姿勢で学習に取り組み、とくに復習を充実させ、定着率向上に全力を注がせる。 ・定期的に各教科から出される課題に真剣に取り組み、学力向上につなげる。	B		
		学校生活と進路学習の充実	・文武両道を目指し、部活動加入率８０％以上を達成する。 ・急激に変化する社会に常に関心を抱き、自主的に将来の進路を探求する姿勢を身に付けさせる。	B		
	２学年	基本的生活習慣を定着させる	・年間出席皆勤８０名を目標とし、安易な欠席を許さない指導を行う ・時を守り、場を清め、礼を正す」ことのできる生徒を育成する。	B	B	・年間出席皆勤は５０名（２月上旬現在）であり、目標の８０名には届かなかった。特に２学期の出席率が９８％を割り込み、全体の欠席数が増えている状況である。卒業して社会人となる生徒もいるため、出席については、継続した指導を行いたい。また、昨年度はできていた挨拶も、以前ほどはできていない状況である。 ・夏季休暇中のオープンキャンパスやインターンシップなど、進路行事の後にはプレゼンテーションを含む適切な振り返りができた。そのため、多くの生徒が進路選択の幅を広げることができたと感じている。しかし、その一方で、よく知らないまま思い込みで進路を決める生徒もいるため、継続した指導を行いたい。 ・修学旅行に東京の自主研修を加えたことで生徒たちの主体性を高めることができた。また、代表生徒を中心とした活動ができたことで、リーダーの育成もできたと考えている。来年度は学校全体に指示を出すという立場となるため、代表としての責任感や意識を高めさせたい。
		主体的学習習慣の確立と 学力の伸長	・総合学習における進路研究により、主体的な進路選択をさせる。 ・希望生徒による放課後の自習室を開設すること、学習意欲を高める。 ・課題、課外授業において、大学受験に対応した学力をつける。	B		
		学校行事の充実	・学校行事における教育的効果を向上させるとともに、主体的に活動できる生徒を育成する。 ・学校行事を通して学年の先頭に立つリーダーを育成する。 ・学校行事の経験をアウトプットすることにより「大学入学共通テスト」に対応する表現力を身に付けさせる。	A		
	３学年	希望進路の実現	・基本的生活習慣の確立の上に、社会人として通用する姿勢、態度の育成。 ・就職、進学試験に対応できる十分な学力の向上。 ・希望進路実現のために学年一丸となって協力していく団結力の育成。	B	B	・希望進路の実現については、就職希望者は例年通り合格を勝ち取り良い結果を出すことができた。特にＪＲや郵政の合格は実績として後輩の励みになるのではないかと思う。進学については公立合格者が３名と目標としていた人数を下回り、十分な学力を身に付けさせることができなかったことが大きな反省点である。 ・若高生としての自覚、リーダーシップに関しては体育大会までは大変良い状況であったが、体育大会後は少し気が緩んだ状況になり今後の課題を残した。
		若高生としての自覚 最上級生としてのリーダーシップの育成	・３年生として、若松高校の模範となる生徒の育成。 ・リーダーを中心として若松高校をより一層発展させるための活動の奨励。 ・３年生一人一人が日常の生活の中で主役として活躍できる人材の育成。	B		